

2年

	<p>①学習指導に関する現状と課題を書きます。</p> <p>②具体的な授業改善策を書きます。</p> <p>③補充・発展的な学習指導の計画を書きます。</p>
国語	<p>① 漢字やカタカナの定着に関しては、個人差が大きい。文を書くときに助詞の使い方を間違ったり、文字が抜けてしまって文の意味が通らなくなってしまう児童も少なくない。「聞く」ことは、静かに話を聞いていても、聞いただけで行動できない児童もあり、話の要点をとらえて「聞く」ことに課題がある。</p> <p>② 漢字、カタカナは、小テストを繰り返し行う。助詞の抜けなど表記に関する課題は、書いた文を自分で見直す方法を指導し、自分で間違いを修正することができるようにする。「聞く」ことは、日ごろから、話の要点は何かを問いかける機会をつくり、相手が何を伝えようとしているか意識して話を聞くことができるようにする。</p> <p>③ 日記の家庭学習を定期的に行い、文章を書くことへの抵抗感を減らす。</p>
	<p>漢字やカタカナの定着については、小テストや復習のプリントを繰り返し行ったことで、以前より力がついてきた。書いた文を読み直すことで文字の抜けも減ってきている。しかし、未だ個人差は大きいので、全体指導の他に一人一人へのきめ細やかな指導は継続していく必要がある。「聞く」ことは、聞く姿勢については大きく成長したが、要点を捉えて聞く力は個人差が大きいので、引き続き指導を重ねていく必要がある。日記の指導を継続したことで、書くことへの抵抗感が減り、スムーズに文章を書くことができる児童が増えた。</p>
算数	<p>① 課題解決への時間のかかり方に個人差がある。一斉授業での内容理解が困難な児童もいる。加減法に関しては繰り返し下がり、繰り返し上がりがないものに関してはほとんどの児童が理解できている。長さや時計の目盛りを読むことや、単位を変換することを苦手としている児童が多い。文章題の意味を理解できない児童もいる。</p> <p>② 授業の時間だけでなく、日常生活の中でも、身の回りにあるものを使って量感覚を養うことができるよう指導する。問題が何を問うているのか、丁寧に読み取る指導をする。児童の能力に応じた指導を行うため、休み時間や放課後などの時間を利用して補習を行う。</p> <p>③ 朝学習や家庭学習など、学習の振り返りができるような時間をとる。自力解決が困難な児童に対しては個別指導を行う。課題の難易度を能力に合わせるなど支援を行う。</p>
検 証	<p>かけ算の定着については、検定を繰り返し行っている。様々な形式での検定を行うことで九九に対しての興味が深まった。簡単な加減法はほぼ全員定着できている。3位数と2位数の加減ひっ算が苦手な児童が何人か見られるため、定着を図っていく。</p>
生活	<p>① 学校たんけんや町たんけんなど、目的意識をもって取り組む児童が多かった。調べてわかったことをまとめるだけではなく、そこから自分がどう考えるのか、考察する力を伸ばしていきたい。植物の観察は、愛着をもって大切に育てる児童とそうでない児童がいた。</p> <p>② 生活科カードを活用して、活動の振り返りを絵や文章で表現する。その際、自分はどうか考えたかを問いかけ、常にそれを意識できるよう指導する。児童が体験したことで、学びを得ることができる活動を精選して行うようにする。</p> <p>③ 課題提示の仕方を工夫し、児童が「なぜ」「解決したい」と思えるようにする。自然や身近な人々と関わる体験について発表し、共有する活動を充実させる。</p>
検 証	<p>生活科カードを活用し、毎回活動を振り返る時間を設けることで、考える力は少しずつ伸びてきている。学校探検、町探検、ミニ図鑑づくり、おもちゃ研究所、ミニ子どもまつりなど、子どもたちが意欲をもって取り組むことができる活動を様々行うことができた。ねらいを明確にして、学習のめあてを繰り返し児童にも伝えていくことで、学びが深まる様子だった。</p>
音楽	<p>① 楽しんで歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりするなど、授業に対して前向きな姿勢で取り組んでいる。鍵盤ハーモニカの演奏技術には個人差がある。正しい指の動かし方がわからなかったり、思うように指が動かなかったりする児童もいる。</p> <p>② 鍵盤ハーモニカの練習帳を使って、段階を踏んで確実に最後まで演奏できるように指導を行っていく。指の体操なども取り入れながら、丁寧な指導を行う。</p> <p>③ 様々な音楽と触れ合える機会を作る。タンギング、スタッカートなど音楽用語を知る、譜読みをするなど音楽の楽しさを知ることができる指導を継続的に行っていく。</p>
検 証	<p>学習するときに、リズムに合わせて手をたたき、体を動かすなどの活動を積極的に取り入れることで楽しんで歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりすることができた。クラスの友達の前で様々な打楽器を演奏する場面を設けた結果、音の違いやリズムを楽しく感じるすることができた。</p>
図工	<p>① 創作活動が好きで、楽しんで取り組んでいる。絵の具などの画材や、はさみやのりの使う技能には個人差がある。一人で自由に発想することが苦手な児童もいる。</p> <p>② 道具の正しい使い方を繰り返し指導する。また、表現を楽しめるよう、様々な画材のよさや特徴をその都度伝えていくようにする。授業の導入を工夫することで、作品作りに対する期待感をもてるようにする。その上で、資料や見本等を適切に提示し、発想を膨らませやすくする。</p> <p>③ 行事や特別活動の装飾づくり等でも、道具を活用する。</p>
検 証	<p>その都度、道具の使い方や、表現を豊かにするためのヒントを提示することで、個人差はあるものの技能は向上した。資料や見本を提示したり、実際にやって見せたりすることで、発想を膨らませることが苦手な児童も楽しんで取り組んでいる様子が見られた。ただし、見本に発想を引っ張られてしまう児童もいたので、適切な提示が必要である。</p>

<p>体育</p>	<p>① 運動の種類によっては苦手意識をもち、消極的になる児童もいる。表現運動は好きな児童が多く、運動会のダンスは体を大きく動かしながら楽しんで行うことができた。プールは、初めの段階では水に入ることにに対して怖いと感じる児童がいたが、最終的には楽しんで取り組むことができた。</p> <p>② より意欲的に取り組むためにゲーム性のある活動を積極的に取り入れていく。また、だれでもできる簡単な活動から始めることで、「できる」という気持ちを育み、体を動かす楽しさを知ることができるようにする。</p> <p>③ 体育の授業以外の中休み、昼休みにも、積極的に体を動かすように指導して体力の向上を図る。</p>
<p>検 証</p>	<p>体を動かすことにに対して意欲的であり、休み時間の間も積極的に外遊びをして楽しんでいる様子が見られる。また、友達と協力をして運動をする様子が見られた。縄跳びや跳び箱、マット運動など技術面に関しては、個人差が大きく、個人に対しての丁寧な指導が必要だと考えられる。</p>